

オオムラサキ

Sasakia charonda charonda

兵庫県：C

環境省：準絶滅危惧 (NT)

種の概要

前翅長43～68mm程度。翅の表面は黒褐色で、♂では青紫色の光沢を有し、黄色から白色の斑紋を散布する。裏面の地色は黄色から銀白色で、後翅端に橙色の斑紋を有する。低山地から山地の落葉広葉樹林に生息し、幼虫はエノキ、エゾエノキなどを食べる。年1化性で、成虫は6月～8月に見られる。樹液によく集まる。



写真提供：刈田悟史

国内分布

北海道、本州、四国、九州

県内分布記録

神戸市、尼崎市、西宮市、川西市、三田市、猪名川町、加古川市、西脇市、三木市、多可町、姫路市、市川町、相生市、たつの市、赤穂市、宍粟市、上郡町、佐用町、豊岡市、養父市、朝来市、香美町、新温泉町、丹波篠山市、丹波市

選定理由

人為性		特殊生息環境	学術性		
個体数激減	生息環境激変		分布が極限	分布の限界	希少
○	○				

特記事項

淡路島を除く県全域、旧40市町に記録があり、広く分布していた。ほとんどの生息地で1970～80年代に個体数が激減した。本種も明るい落葉広葉樹林を生息地とするが、南部と北部では常緑樹林の増加、中部ではシカの食害による森林環境の単純化などで良好な環境の生息地は激減した。

保護上の留意点

丹波篠山市では飼育展示を通じて環境の保全とチョウの保護に対する普及啓発を行っている。